

# 発行 青森県感染症情報センター(2008年4月4日)

(青森県環境保健センター:担当 微生物部)

TEL 017-736-5411, FAX 017-736-5419

青森県環境保健センターホームページ http://www.pref.aomori.lg.jp/eiken/index.html

# 青森県感染症発生情報

#### (2008年第13週)

**第 13 週の発生動向**(2008/3/24~2008/3/30)

- 1. **咽頭結膜熱については**、東地方+青森市保健所管内においては第 45 週から、むつ保健所管内において第 48 週から<mark>警報</mark>が続いています。
- 2. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については**、東地方+青森市保健所管内においては第8週から、弘前保健所管内では第10週から警報が続いています。

第13週五類感染症定点把握注: 五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

	東地方	+青森市	3	が	1	(F	五角	f 川 原	Ŀ	+ <b>=</b>	ŧ	כנ	青森	県計	増減数	東地方	5(再揭)	青森市	(再掲)
疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	(前週からの増減)	数	定点	数	定点
(85) インフルエンザ	9	0.64	2	0.13	1	0.07	1	0.14					13	0.20	-33	1	0.50	8	0.67
(74) RSウイルス感染症									2	0.33	3	0.75	5	0.12	4				
(75) 咽 頭 結 膜 熱	5	0.56	1	0.11					7	1.17	8	2.00	21	0.50	-15	1	1.00	4	0.50
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	4.89	26	2.89	7	0.78	1	0.20	8	1.33	1	0.25	87	2.07	-5	7	7.00	37	4.63
(77) 感染性胃腸炎	50	5.56	33	3.67	16	1.78	18	3.60	11	1.83	20	5.00	148	3.52	-57	7	7.00	43	5.38
(78) 水 痘	17	1.89	7	0.78	3	0.33	10	2.00	9	1.50	2	0.50	48	1.14	-14	1	1.00	16	2.00
(79) 手 足 口 病			8	0.89									8	0.19	7				
(80) 伝 染 性 紅 斑					3	0.33							3	0.07	-1				
(81) 突 発 性 発しん	5	0.56	4	0.44	3	0.33	1	0.20	3	0.50	4	1.00	20	0.48	0			5	0.63
(82) 百 目 咳															0				
(72) 風 しん	平成2	20年1月	1日た	いら全数	奴把握	疾患に	移行	しました	<del>ا</del> ر						0				
(83) ヘルパンギーナ															0				
(73) 麻しん	平成2	20年1月	1日た	いら全数	女把握	疾患に	移行	しました	<del>ا</del> ر،						0				
(84) 流行性耳下腺炎							1	0.20	2	0.33			3	0.07	-2				
(86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	1	0.50	1	0.33	5	2.50	1	1.00					8	0.73	1			1	0.50
(95) マイコプラズマ肺炎					3	3.00					1	1.00	4	0.67	-3				

	定。	点数			
保健所名	インフルエンザ(内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15 14 7	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	5 2 3 2 4 23	3 2 1 2 1 2	0 1 1 1 1 1 1 6
青森市	12 65	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

は警報

は注意報

「空欄」: 患者発生数 0

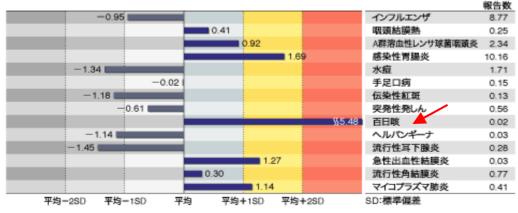
表 以外の感染症法対象疾患 (注:届出数は速報値です) (9)結核(二類全数把握疾患):八戸2人、五所川原1人、青森市1人

(73) 麻しん(五類全数把握疾患):むつ1人

(20年計:85人) (20年計:40人)



# 百日咳



# 図 定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第8週)

## 左図の説明

定点当たり

第8週と過去5年間の 平均(過去5年間の前 週、当該週、後週の合計 15週の平均)との差を グラフ上に表現。

国立感染症研究所まとめ

国立感染症研究所は、図に示したように、百日咳の定点当たり報告数は増加し、過去 5 年間の同時期と比較して増加していると発表し(2008/03/21)注意を呼びかけています。本疾患は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症ですが、年長児や成人では、特有の咳が少ないため診断や治療が遅れ、乳幼児への感染源となることが懸念されます。乳幼児では重症化することもあり、感染を防止することが大切です。海外での発生数は激減していますが、ワクチン接種をしていない人での発病は見られていることから、咳が長引く等の症状がある場合には、医療機関に相談することが大切です。